（別紙4）　　平成　23　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4372900698		
法人名	社会福祉法人　東泉会　介護老人福祉施設　ひかわの里		
事業所名	グループホーム氷川　（もみじ）		
所在地	熊本県八代市東陽町　762－7		
自己評価作成日	平成24年3月18日	評価結果市町村受理日	平成24年5月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	tp://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4372900698&SCD=320&PCD=

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41－5
訪問調査日	平成24年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

恵まれた自然環境、整備された苑庭、広々とした菜園の中、四季を感じながら、ゆったりと生活ができる。職員は、お一人お一人の思いを大切に手を出しすぎに注意し寄り添い、耳を傾け入所者中心の生活を心がけている。医療面においても、地域の医療機関との連携を築きながら支援している。急変時対応も母体法人の協力があり適切な対応が出来ている。また年間行事を通じて、地域の方々とも交流が盛んである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

＊山や花・清流等の美しい自然環境に恵まれており、さらに広い園庭も整備され、常に四季を感じることのできる施設である。　＊　法人と合同での行事の実施・双方の利用者の交流・緊急時の協力体制など、母体特養との連携が密に図られており、入居者・家族・職員の安心に繋がっている。　＊　理念に沿って、一人ひとりの自主性を尊重し、それぞれのペースに合わせ、できることはできるだけ自分でやっていただき、自信をもってもらうケアが心掛けられている。　＊　職員と管理者、職員同士のコミュニケーションが良く取れており、意見・提案を出しやすい職場環境であると感じられた。和気あいあいの雰囲気の中で、入居者の表情も明るく、穏やかな暮らしがみられた。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝のミーテングで斉唱、日々の暮らしの中で理念を念頭に置いたｹｱの実践につなげている。月一回のスタッフ会議で日頃のｹｱのあり方を検討している。	理念は、「個性の尊重とやさしさと」「地域の中でなじみの方とかかわりながら、ゆったりと楽しく」「残された力で暮らしに喜びと自信を」。事務室に掲示し、毎朝復唱して職員全員で共有している。入居者は人生の先輩であるという尊敬の念を常に忘れず、一人ひとりにあわせた暮らしへの支援を心がけ、日常の気づきはその都度声をかけ話し合い、理念に沿ったケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人施設全体が地域と連携が取れているため地域の行事への参加ができる。また施設行事、奉仕活動にも協力して頂いて交流も盛んである	法人の三大行事「花見」「納涼祭」「敬老会」は、婦人会や幼稚園からの出し物もあり、地域の方も楽しみに待つ毎年恒例の行事となっている。また、婦人会・老人会から清掃や草取り・窓ふき等のボランティアに来てくれたり、老人会のグランドゴルフ大会にはグループホームでチームをつくって出場するなど、地域との継続的な交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設の居宅介護支援事業所で、介護教室に協力したり、職場体験の受け入れを法人として行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、活動内容の報告や日ごろの状況など説明をするようにしている。和やかな雰囲気の中活発な意見交換ができている。また、入所者の生活暦など聞くことができ、コミュニケーション作りに生かしている。	民生委員・区長・婦人会・市行政・入居者家族等をメンバーに2ヶ月に1回開催。入居者の状況や活動報告が行われているが、ホーム運営上の課題等について、意見交換を行うまでには至っていないように伺えた。	会議は報告や情報交換にとどまらず、ホームの課題や地域の協力が必要な事項等について提起し、アドバイスを得るなど、より有効な会議運営が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会、グループホーム八代部会などで意見交換会ができる。また疑問点は直接電話で尋ねるようにしている。	市支所担当者とは、運営上の疑問点等電話での相談は行われているものの、運営推進会議への出席は必ずしも得られていない。地域包括支援センターは、法人の居宅介護支援事業所との連携はみられるが、グループホームとの連携はほとんどない状況とみられた。	地域密着型サービスにとって、市行政との連携は不可欠である。ホームが地域にとって有意義なものとなるよう、共に協力していけるよう、さらに連携を深めることが期待される。また、グループホームとして直接、包括支援センターと連携し、地域の情報を得ていくことも必要と思われる。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人合同で設置している身体拘束廃止委員会で話し合い、マニュアルを定め勉強会を行っている。外に出られる時は、一緒に散歩行っている。	法人全体で身体拘束委員会を持ち、勉強会を行ったり、身体拘束に関する意識調査等を実施し、身体拘束について意識し考える機会を設けている。「ダメ」「ちょっと待ってください」等は言わないように心がけ、すぐに対応出来ないときは、説明して納得してもらうよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待の事例などで勉強会をしたり、講演会には積極的に参加するようにしている。職員のストレスが入所者に向かないように食事会等で発散できるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について研修に受講し理解に努めているが、今のところ該当者は無く、職員の理解は低い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明し疑問点や不安な部分は時間をかけ説明、同意を得るようにしている。面会時などに会話をしながらさりげなく尋ねるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法事全体で家族会が作られており、意見交換が出来る場面がある。	毎年、花見会とあわせて法人全体で家族会を開催し、その後利用者・家族と一緒に昼食を食べながら、ホームでの活動や転倒などの報告・意見交換等を実施。また、面会時にも、意見・要望等聞くようにしているが、「何事もホームにおまかせします」という風潮があり、意見・要望等はほとんど出されていない。	時にはグループホーム独自で、家族が交流し、家族だけで話しあえる場をつくるのも良いと思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や併設施設との全体会議などで、提案や意見を聞き必要に応じて反映させている。また、必要に応じて意見を聞くようにしている。	月1回のユニットごとのスタッフ会議や、毎日の申し送りで、ケアでの気づきや提案などを話し合っている。業務が時間内に終わらない場合の引き継ぎ・連携等についての改善など、職員の提案を取り上げ、業務に反映させていく仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務条件を考慮した勤務形態である。内容に応じた研修会参加や各資格習得に向け、学習勧奨をおこなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の勉強会、八代部会の勉強会、また外部の研修会など参加している。内容を全職員で共有するため研修発表をするようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八代GH部会の研修会、親睦会などに参加、困難事例の検討や、質の向上に向けた取り組みをしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のケアマネ、家族より情報収集をとりながら困り事や要望などを聞き家族と一緒にホームを見学して頂き、利用者の心身の状況や想いを聞き出すようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安なこと要望など思いを傾聴、信頼関係作りにつとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族や担当ケアマネからの情報の収集をし、必要とされている支援を見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人お一人の得意分野を把握し、また人生の先輩として色々尋ね喜怒哀楽を共に感じ生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時折、家族からも電話を頂きご本人の様子や状態を報告している。定期のお薬届、散髪来苑、病院受診など出来るだけ家族にも関わっていただくような関係作りが出来ている。また状態報告を日頃の写真を添えて家族へ年2回「通信」を配布している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	敬老会、文化祭、小学校運動会等地域から大会、のお誘いにはなるべく参加している。また施設のグランドゴルフ、お寺参り等馴染みの方との交流の場を設けている。	老人会の慰問を受けたり、地域の敬老会・文化祭等の行事へ積極的な参加をするなど、友人・知人と再会する機会を作ったり、各地区のお寺参りのドライブやふるさと訪問を行う等、馴染みの人や場所との関係継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の良い利用者同士を隣に配置、お互いが支え合う環境作りに努めている。また一人一人になる方へは職員が間に入り共通の話題を提供し孤立しないように努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しい生活の場所でもこれまでの暮らしの様子、留意点について情報提供し、将来への不安を伺い相談や支援ができることを説明している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに目を向け日頃の会話やさりげない話題で希望や意向を聞き出すように努めている。	入居者とのコミュニケーションを大事にしており、「～に行きたい」「～を食べたい」等の要望は、自分で申告する入居者も多く、言葉では言えない人も、答えを準備し、選択してもらう工夫を施し、「この服を着ますか？」と尋ねれば「はい」「いいえ」等、仕草で意思表示し易い聞き方をするよう、心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、担当ケアマネから協力を得て、情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の申し送り等でご本人の体調を確認する。日課の中でその日の体調について変化を見逃さないように目配り、健康ﾁｪｯｸ、ｹｱ日誌、サービス計画実行表に記録することで一日の過ごし方や全身状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議で毎月意見やアイデアを話し合っている。本人からは日々の会話や暮らしで思いを聞き計画に反映している。面会も無くしっかりと話し合えていない家族もいる。	ケアマネージャーからの情報と、本人・家族への聞き取りを基にケアプランを作成。生活していく中で、できること・できないことを把握し、職員の意見を聞きながら、一人ひとりの状況により、1ヶ月・3ヶ月・6ヶ月と評価を実施。現状にあったプラン作成に努めている。本人が自信を持てるよう、残存機能を活かす計画の作成が心がけられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス計画実行表に記録し、朝の申し送りで伝え意見やアイデアがあればプランに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設であり、ホームとしても協力体制をとっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物、お寺参りをなど希望に応じて個別外出を実行している。また法人のミニ運動会にも参加し競技を楽しまれた。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時本と人家族の意向を確認し、安心できるようなかかりつけ医との関係作りに努めている。緊急時にも相談できるよう体制が出来ている。	入居時に本人・家族の意向を確認した上で、内科のかかりつけ医は基本的に近くの協力医としている。2週間に1回、協力医に定期報告を行っており、24時間連絡可能で、必要時はいつでも往診してくれる体制ができている。当日も医師・看護師が骨粗鬆症の薬持参での往診があり、入居者との和やかな挨拶や会話が交わされており、日頃の密な連携が伺えた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体法人の看護師といつでも相談できる体制で急変時の対応も適切に行われる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時医療機関へは情報を提供し、情報交換に努めいている。退院時にも家族と医療関係者と話し合い退院後の生活支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ医療機関、家族とホームの限界を示して、随時検討するようにしている。	入居時に、ホームでは延命措置・医療対応が難しいことを本人・家族に説明し、「事前指定書」で対応についての意思確認を実施。また、重度化した際には、家族・医師・施設による話し合いを行い、連名で「看取り介護同意書」を作成し、意向に沿った支援に努めている。これまでのところ、最期は病院搬送となり、看取りの経験はない。	ホームでの最期を希望された場合に備えて、職員体制や対応等について具体的に検討する必要があると思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルをいつでも見える所に貼り全職員が確認できるようにしている。また、併設施設と合同で救命救急講習を年一回行われている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、独自の避難訓練を行っている。緊急連絡網を作成し災害時、非番制にて夜間泊まり込みを取り決めている。	法人全体での避難訓練を年2回実施。他に、グループホーム独自での訓練を年1回、法人の応援と消防署の協力を得て実施している。10月の運営推進会議では、「風水害、台風、地震等防災計画」について説明しており、地域との協力体制について検討がなされている。また、事務室には緊急時の対応や心肺蘇生法・AEDの使い方等が大きく貼られ、緊急時の備えがみられた。	運営推進委員から、地元消防団に運営推進会議に参加してもらってはどうかという意見が出されており、ぜひ実現し、敷地内・ホーム内の把握や避難訓練への協力が得られることを期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃、職員間でﾁｪｯｸし配慮に欠けるような対応にはその都度注意をしている。人生の先輩としての尊敬の念を忘れず、一人ひとりに応じた声掛けをするよう心がけているが親しさゆえに慣れ合いになっている職員もいる。	理念に「個性の尊重とやさしさと」「残された力で暮らしに喜びと自信を」とあるように、一人ひとりの自主性を尊重し、それぞれのペースにあわせ、できることはできるだけやっていただき、自信を持ってもらうケアを心がけている。また、外部の方でも親しさゆえに「おじいちゃん」「おばあちゃん」など馴れ合いの言葉に気づいた時は、さりげなく注意したり、排泄の誘導の際は「散歩に行きましょうか」などと声をかけ、トイレの後に散歩にいく等、誇りを傷つけないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の分かる表現方法での仕草や表現での読みより、本人の思いを大事にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分を見極めその人にあった個別ｹｱを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ほとんどの方がその日の気分で衣類を選んでおられ、そうでない方は声かけ行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の献立の匂いでメニューを想像し次に食べたいメニューを希望されることもあり楽しみの一つになっている。準備、台拭き、下膳、お茶碗洗いなど出来る範囲内でのお手伝いをお願いしている。	献立は栄養士が立てるが、ホームの畑の野菜収穫や、家族からの差し入れによってメニューを変えたり、希望によって調理法を変えたりと柔軟に対応している。気候の良い時期は、庭で美しい景色を眺めながら食事やお茶を楽しんだり、お弁当を持ってのコスモス見学やレストランでの食事など、気分を変えて楽しむことが実施されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の管理栄養士が立てた献立を元に季節の食材や菜園でとれた野菜でアレンジしている。摂取量は個人の記録に記入している。水分は起床時、おやつ時、就寝前と毎食の食事以外でも摂るようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔洗浄歯習慣になっている。義歯の洗浄も定期的に行っている。うがいの水を飲み込まれる方へはお薬用の水を用意している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表などでパターンを把握、さりげなく声かけしている。行動言動をサインとして速やかに失敗なくトイレで排泄できるように支援している。	一人ひとりの排泄パターンに応じて、また、なんとなくそわそわと落ち着かない人にはそっと声かけしてトイレ誘導を実施。排泄を意識するように、できるだけリハビリパンツから布パンツへ移行する等、自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄ﾁｪｯｸ表にて確認し、起床時、冷たい牛乳を勧め、おやつには食物繊維を取り入れたり、ｺｺｱ等で無理なく排便できるように支援している。また散歩、全員での体操のほか、車椅子の方には、起立運動も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望を聞き、実施している。時間を気にせず入浴したい方には見守りながらゆっくりと入って頂いている。季節によってゆず湯、菖蒲湯を楽しめるようにしている。	希望により、毎日でも入浴可能。リウマチの方はその日の痛みに応じて清拭にする等、一人ひとりの状態に応じての支援がある。季節ごとにゆず湯・菖蒲湯等や入浴剤などで変化をつけ、入浴を楽しむ工夫がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の活動を高め、昼夜逆転を防止、本人の生活習慣、現症状に合わせ安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬状況は全職員が「薬説明書」を確認、副作用、体調変化に十分注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好みを把握し、掃除、洗濯たたみ、洗濯干し畑の野菜手入れ、収穫など個々の役割として発揮し職員にも教えて頂いている。併設施設で行われる行事にも参加し楽しみの持てる生活ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	景色を眺めながら季節の移り変わりを感じて頂けるようﾊﾞｽﾊｲｸ、同じ法人のミニスポーツ大会、「破魔矢」を希望され神社参り、買い物、散髪等　また自宅へ家族と庭の草取りなど行われた。	季節ごとに藤の花・コスモス・彼岸花等のお花見や、三社参りや妙見祭などのドライブを楽しんでいる。また、日常的には、広い敷地内を散歩したり、庭のベンチで美しい花や山などを眺めながらお茶や日光浴を楽しんだり、買い物に出かけたりと、それぞれの体調や希望に応じた支援がなされている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方は、2名ではあり管理して頂いている。他の方においても、買い物時使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話されている方が一名で他の方は希望に応じて対応している。手紙のやり取りは今のところ無いが「氷川通信」を見てわざわざ電話を頂く家族もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間から見える木々や景色、玄関、洗面台には季節の草花で季節を感じて頂けるよう配慮、トイレ後の匂いある場合は素早く換気、心地よい温度での生活が出来るよう温度調整している。	玄関・廊下・テーブルなど、各所に季節の花が活けられ、和やかな温かい雰囲気となっている。また、談話室・リビング・廊下などあちこちに椅子やソファーなどが設置されており、疲れたらちょっと休んだり、好きな場所で外の自然を眺めながらゆっくりのんびり過ごせる場所が作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に自由に過ごせるようソファ-を設置、各居室に気の合う利用者同士で過せるよう椅子をおいたりゆっくりと過す時間を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にソファーを設置したり、別ユニットの空き室を利用することもできる。好みの物を持ち込まれているかたもおられる。	各居室のドアには、それぞれ異なった花や飾りを付け、部屋を間違えないための工夫がなされている。居室には、タンス・椅子・テレビなどが置かれ、壁には家族の写真・自分で書いた習字の作品・小物などが飾られており、それぞれの部屋づくりがみられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に名札、トイレ表示，廊下は手すり設置されている。自分の部屋が解られない方へは飾りをつけ目印としている。		

（別紙4）　　平成　23　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4372900698		
法人名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
事業所名	グループホーム氷川 （りんご）		
所在地	熊本県八代市東陽町　762－7		
自己評価作成日	平成　24年　2月　20日	評価結果市町村受理日	平成24年5月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	tp://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4372900698&SCD=320&PCD=

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41―5
訪問調査日	平成　24年　3月　30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

恵まれた自然環境、整備された苑庭、広々した菜園の中,四季を感じながら、ゆったりと生活が出来る。職員は理念（個性の尊重とやさしさと、ゆったりとたのしく、残された力で暮らしに喜びと自身を）を念頭に、お一人、おひとりの思いを大切に入所者中心の生活であることを心がけている。医療面においては、地域の医療機関と連携を築きながら対応している。また、急変時も母体法人の協力があり、適切な対応が出来ている。生活面においては、食べる事の楽しみを持って頂く為に季節毎の行事食や、お一人、おひとりの誕生会のケーキ作りなどをしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼、申し送りで確認、意識するようにし　月一回のスタッフ会議で日頃のケアのあり方を検討している。気になる点については随時話しあっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人施設が地域と連携が取れているので、地域行事への参加もできる。また、施設行事、奉仕活動にも、協力して頂いて交流も盛んである。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設の居宅介護支援事業所で、家族介護者教室に協力したり、面会時などで、認知症の人の理解や、支援について話すようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、活動内容や、日頃の状況など説明している。和やかな雰囲気の中意見交換が出来ている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、グループホーム八代部会などで意見交換ができる。また疑問点は、直接電話で尋ねる様にしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人合同で設置している身体拘束廃止委員会で話合いまマニュアルを定め勉強会を行っている。玄関の施錠はしておらず、自由に出入りが出来る。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待の事例などで勉強会をしたり、講演会には積極的に参加するようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての研修に受講し、理解に努めているが、今のところ該当者はなく、職員の理解は低い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は十分に説明し、不安や、疑問点は時間をかけ説明、同意を得るようにしている。面会時には気軽に話す雰囲気を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人全体で家族会が作られており、意見交換が出来る場面がある。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	併設施設の全体会や、グループホームのスタッフ会議などで、意見、提案に耳を傾け必要に応じて反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務条件を考慮した勤務形態である。内容に応じた研修会参加や各資格取得に向け、学習勧奨を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修会には、積極的に参加		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八代グループホーム部会の研修会、親睦会などに参加、困難事例の検討や、質の向上に向けた取り組みをしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所者前にケアマネージャー、家族より情報収集、に努める。本人の言動、思いを的確に捉えるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを傾聴、理解できるように、家族と会話を多くするようにして、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の情報を元に、入所の時本人、家族とじっくり話しをして必要としている支援を見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人おひとりの思いを聴き、常に人生の先輩として、いろいろ尋ねながら、喜怒哀楽を共に感じ生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への電話は希望があれば随時対応している。面会、外出などもいつでも出来るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事(敬老会、文化祭等)参加、地元お寺参り、グランドゴルフ大会見学など、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事や、レクレーションなどを通じてお互いが支えあう環境作りに努めている。共通の話題提供を考え会話が弾むようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、本人、家族の経過を見守りながら相談や、支援できる事を伝えている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前に担当ケアマネージャーから情報収集、本人、家族様からも話をしながら、情報を集めるようにしている。出来るだけ本人の思いを優先するようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報を元に、入所の時本人、家族とじっくり話しをして必要としている支援を見極めるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日のバイタル、発語などの、変化に注意し、体調の変化を見逃さないよう、目配り、気配りし現状の把握に努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の会話や暮らしぶり、家族との面会時の会話から本人にとって何が一番よいのかを話し合い介護計画を作成するようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、ケアの実践などは個別記録に記入し、申し送りの時皆で共有、検討するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設で、いろんなサービスを提供しており、行き来が可能で柔軟な対応ができている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出、買い物を希望される入所者に対して個別に外出をしたり、外食も食べたい物を注文され楽しまれた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に家族と本人の意向を聞き、安心できるよう関係を築きながら、医療をうけている。専門医療機関への紹介もして頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体法人の看護師と、いつでも、相談出来る体制で、急変時の対応も適切に行われている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、医療機関への情報提供、情報交換に努めている。入院中も家族、病院と話し合いながら、退院後、不安がないように、支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合については、入所の際家族と話すようにし、医療機関に説明、状態の応じて、随時検討するようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを見える場所に貼り,確認するようにし、対応についても、手順なども,スッタッフ会議、日々の申し送りの際伝えるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	母体法人の避難訓練と独自の避難訓練を昼間、夜間を想定して行っている。運営推進会議の時、議題にあげ話し合っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の先輩である事を意識して、子供扱いにならないよう、言葉賭けに注意するようにしている。排泄介助の言葉賭けにはさりげなくを心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の先取りした声賭けや、返事のみの質問にならないよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	母体法人の行事がない限り、今日は何をしましょうか、何がしたいですか、と尋ね希望があれば体操、歌、外出など希望に応じるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪飾の好きな方、スカーフをしたい方には希望に応じて支援、洋服も出来るだけ本人に選んでもらうようにしている。男性の方には、髭剃りの声賭けや洋服選びなどの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	何が食べたいですか、今日は何にしますか、と会話しながら、食事作りをしている。時折ファーストフード、弁当など注文して一緒に楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体法人の管理栄養士の献立をもとに、毎日の食事作りをしている。水分の少ない方には、コーヒー、紅茶など、違った飲み物で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔洗浄の声賭け、一部介助で、清潔保持に努めている。週2回の入れ歯洗浄も行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをもとに、さりげない声賭け、トイレ誘導をしている。リハビリパンツから布パンツへと排泄を意識されるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックをもとに、排便のない方には、起床後黄な粉牛乳や、さつまいも、豆類などを献立に取り入れ、便秘予防に取りくんでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日でも希望があれば可能である。時間帯などもお一人、おひとりに声かけ尋ねるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝を好まれる方、早ね、早起きの方、夕食後テレビなど観てゆっくり過ごされる方とお一人、おひとりに応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日のバイタルチェックで状態観察し、変化があれば主治医に連絡を取りながら対応している。また、体調に変化があるときも、随時報告、服薬の検討をしけいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理好きの人には、皮むき、ごぼうの笹がきなどの、下ごしらえを手伝って頂き、配膳、下膳、おしぼりたたみは役割として取り組まれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じて、ドライブ、外出をするようにしている。門徒寺へのお参りは地域の協力で、年2回位出かけている。日頃の会話から希望の応じるように心がけている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の方のみ所持しておられる、希望の品物の買い物の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方にはいつでも出来るよう支援携帯電話所持の方にも使い方など援助している。手紙のやり取りが出来なくなった方に対して近況報告、写真など送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下には、季節の草花を置き季節感を、対面キッチンでは、入所者と会話しながら食事作りで、生活感取り入れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室には一人用、三人用のソファーを設置本人様の意志を尊重するようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	殆どの方が使い慣れた家具の持ち込みはなく、入所されてから本人様と相談され部屋作りされていえる。家族が泊まられるよう、簡易ベッド、などの、提供ができる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はすべてバリヤフリー、居室、トイレには名札を目の高さに設置している。歩行不安定な方には途中休憩を取れるよう廊下に椅子など設置、出来るだけ歩行してもらっている。		